

2月号

第421号

いっしん

令和2年(2020年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

日にあらた
日にあらたにと
神幸に
生かされてこそ
今日の身もあれ
甘本親教会
初代教会長
安武松太郎師神教

教祖様137年 教団独立120年 小倉布教135年 甘木布教116年
安武松太郎大人69年 安武文雄大人25年(式年祭11月23日) 加治木教会布教69年



地方の民話は正直に勤勉に生きる
ことの大切さを教える深い意味合いや
心豊かなおもしろさがありました。



とってもおいしい、七草入りタコ焼きと、ぜんざいができあがりました。



お正月気分さめやらぬ一月五日
(日)、少年少女会「鏡開き」がありま
した。

今年のはじめての少年少女会、タコ
焼きはタコだけでなく、ウインナー
焼き、エビ焼き、チーズ焼きといろ
いろあって楽しかったし、おいしか
ったですね。一番人気は、ウインナ
ー焼きかな？

この時は「七草」でもあり、鹿
児島県では近所の七軒の家から七草
粥を頂いて食す習慣があります。

地域の子供会では、公民館に神主
さんに来ていただいております。七
草粥を頂くところもあります。

加治木町では七日(火)に蒲生田通
り商店街の物産館広場で開かれた
「七草」にテレビ局の取材があり、
夕方の県内ニュースで少年少女会に
も参加していた佳歩ちゃん和瑠夏ち
ゃんがオンエアされていましたね。

少年少女会でも、以前は七草粥(な
なくさがゆ)を頂いていましたが、今
はタコ焼きの中に七草を入れていま
す。

だから、実は「七草入りタコ焼き
パーティ」なのです。

少年少女会「鏡開き」…P1
「胎教」について…P4

「難はみかげ」青木トミ子氏…P2～3
お知らせ…P5 教会行事…P6

「難はみかげ」

一 起きてくる事柄を通して
名城教会 青木トミ子

長男が多発性骨髄腫に…

宮川花子さんと同じ難病

命を助かり、家族信心に

青木トミ子氏の、名城教会での感話発表の
原稿を三回に分けて掲載させていただきます。

青木トミ子さんの旧姓は向江で加治木教会の
故政美親先生ご布教昭和二十六年の当初にご神
縁を蒙り、手厚い熱心な信心を家族で進められま
した。現在、愛知県愛西市に夫の青木宗一さんと
二人暮らしです。トミ子さんご夫妻は、実のお姉
様の故向江ナツ工先生が御用しておられた、佐屋
教会加治木教会から愛知県で布教されておられ
たが閉鎖された後、名古屋市内にある名城教会
(教会長河合利男先生は高齢の向江先生を親し
くお世話して下さった)に参拝して信心に励んで
おられます。

① 只今、ご紹介をいただきました青
木トミ子です。

私は、愛西市から参拝させていた
だいておりますが、元々は、私の姉
が教会長をしていた佐屋教会の方で
信心の稽古を進めておりました。し
かし、平成十八年に佐屋教会が突然
閉鎖ということになり、私たち家族



青木トミ子氏

青木宗一氏

は元より、総代
の方々など、「神
様から手を切ら
れた」と信心を
やめようとされ
る方もおられ、
信者一同が路頭
に迷う中、私た
ち家族は、一年
間は、佐屋教会
の親教会である
鹿児島にある加治木教会に電話やお
手紙でお取次をいただいております
た。

その間に、自転車で転んで股関節
を骨折したり、緑内障で両目を手術
したりと、難儀なことが多くて、お
金のことを言っではいけません、お
電話代も高くなるので、日々のお取
次を頂く事も出来ず、徐々に取次の
内容をより分けてするようになりま
した。

教祖様は「大きいことも、小さい
ことも、すべてを大切に」と教えて
下さっているのに、これではおかげ
を頂けませんよね。

加治木教会の親先生は、名城教会

に一年に一回でも御大祭にお参りさ
せて頂いて、御本部へ御礼参拝が出
来るようにと、度々電話をして下さ
ったのですが、その頃はまだ、杖を
ついていてもあまり歩けない状態で
したので、電車に乗って一時間以上
もかかる教会まではとても参拝する
ことは出来ない、言い訳ばかりし
ていました。

その後、考え違い、思い違いに気
付かせて頂き、平成十九年十二月に
名城教会の方へお引き寄せを頂きま
した。家に帰ってから主人と二人で
「お参り出来る教会があることがあ
りがたいね」と涙が出てきました。

初参拝の翌年、平成二十年一月九
日・十日と御本部初月例祭への参拝
があることを知り、教会長先生の車
で連れて行って頂き、加治木の親先
生が願っておられたように、御本部
への御礼参拝が叶いました。

御本部でのお届けは、今まで教会
長先生がされるのを後ろから共に参
拝するという形でしたが、初めて金
光様の前で主人と二人お取次を頂く
ことができ、金光様から「ようお参
りでした」とのお言葉を頂き、本当

に感激しました。

その後、参拝者の皆さんと共に、奥城参拝・御本宅への新年の挨拶と一緒にいかせて頂きました。何もかもが今までとはちがった新鮮な御本部参拝でした。

その後は、せめて月に一回の月例祭の教会参拝を願いとし、片道一時間半の参拝が出来るようになって今年十二年になります。今日では、願いを立てて毎月例祭に参拝できるおかげを頂いております。

お引き寄せを頂いてからは、毎年六月に自宅で感謝祭を、教会長先生にお見え頂きお仕えて頂いております。

さらに、それに加えて先生にご無理を言って、三ヶ月に一回の愛西集会をお願い致しました。

先生は快く受けて下さり現在も続けさせて頂いておりますが、集会の願いとするとところは、教会から離れてしまった元佐屋教会の信徒総代の方が弥富に住んでおられるのですが、その方々に、もう一度信心の芽が息吹きますように、また末信奉者の方や隣近所の方々を誘って神様のあり

がたい話を聞いて頂きたいとの願いを立てての事です。

七年前の感謝祭や愛西集会までは、今お話ししたように、末信奉者や隣近所の方々を中心にすすめてきたのですが、五年前の感謝祭をきっかけに、参加者の間で問題が起きてきました。

「ああもしてやった。ごうもしてやったの」と言われるようになって、金光教の悪口まで言われるようになってになりました。

教会長先生は、感謝祭が「神様へのお礼のお祭りなのか」「友だちのためのお祭りなのか」判らないようになっていませんか、あなたは、「息子さん達へ信心を伝えたい。」と願いを立てて取り組んでいるではありませんかと教えて頂き、考え違い、思い違いに気付かせて頂きました。

それまでの感謝祭は、息子達には「遠いだろう」「忙しいだろう」とか思ってた知らせていませんでした。

この時、感謝祭を前に、息子達二家族に知らせたところ、法事だと言ってお願いすれば休めると言ってくれ、都合を付けてくれました。

その後は、三家族全員が揃って感謝祭を仕えることが出来、今年で七年になります。

京都の長男も仕事のことや息子の進学の事など事ある度に電話でお取次を頂きおかげを頂いております。

孫も感謝祭の話を聞いて、自分の進路のことについて、自分でファックスを送って先生にお取次を頂く、嫁は嫁で自分の資格試験や主人のことなど、私を通じてお取次が頂けるようになりました。

年に二回ほど実家に帰ってきますが、必ず名城教会に御礼参拝に参ってくれるようになりました。

大学生の孫達も自分のお小遣いをお献備に入れて、自分たちで名前を書いてお取次を頂くようになりました。

(つづく)



薩摩義士 治水神社にて (岐阜県)

佐屋教会の記念祭には加治木から政美親先生はじめ信心仲間たちが参拝… (S62.11.4) 左端、青木宗一氏

「胎教」について

『金光教教典』

金光教祖御理解より

87 腹は借り物というが、借り物ではない。万代の宝じゃ。懐妊の時は、神の氏子がわが胎内におると思つて大切にせよ。

『安武松太郎 教語』より

494 豊臣秀吉は木下弥兵衛の息子です。母親は子供がないから、日吉権現に参つて子供を授かるようにお願いをされたら、ある日、太陽を呑んだ夢を見られました。それで、お天道様が宿つてくださったと思つて大事にされ、男子が生まれたので日吉丸と名付けられました。

母親は太陽を宿していると思ひ、よほど大切にされたことと思います。だから、戦国時代の混乱した世に、だれが治めても治まらない世を、草履取り

から出世して天下を取り、国を治め、陛下の大御心を安め奉り、民も安堵するに至つたのです。これは母親が偉かつたと思ひます。

495 産婦は喜ばなければなりません。喜びの清い血を子供に分け与えなければなりません。

心によって血が変わるので、子供は、親が妊娠中に持っていたような心の子ができるのであります。



喜ぶことは、安心・安らぎであり、人間の心と体にプラスになることはだれもが知るところであり、また喜ぶことは、笑顔になることでもあります。その笑顔の効果は、次のとおりです。

笑うこと

七つの素晴らしいメリット

- ① 免疫力をアップさせる(NK細胞 癌細胞を破壊するナチ とB細胞 体液性免疫の中心 とT細胞 となるリンパ球 が活性化)
- ② アレルギー(アトピー)を改善させる
- ③ ストレスを解消し、プラス思考になる
- ④ 心臓病の予防に効果大
- ⑤ 糖尿病・リウマチの治療に効果大
- ⑥ 「つられ笑顔」笑顔は伝染し、集団のストレスが軽減される
- ⑦ 出世・成功を呼び寄せる

*

妊婦が、安心・笑顔となることにより、お腹の中の赤ちゃんにとって、どんなに良い環境が生まだされるかはかり知れません。

妊婦本人はもちろん、家族、周囲、すれちがいざまに出会う人までが、妊婦に対し良い環境を気づかいしてあげることが、豊かな社会や未来ができていくことにつながるでしょう。

台風15号・19号はじめ、各地で発生した豪雨・地震・火災により被災され方々の一日も早い復興、安心、立ち行きをお祈りさせていただきます。



那覇市、首里城火災の再建義捐金へも協力させていただきます。

※募金は教会の支援金箱にどうぞ

金光教本部「災害救援・社会活動資金」の募金
郵便振替口座番号 01200-3-14845
加入者名 金光教本部教庁 災害救援社会活動資金

鹿児島地方教会連合会「社会活動支援金」の振込先
ゆうちょ銀行<記号>17820
<番号>19085871<名義>金光教鹿児島災害対策室 代表 矢野 章



- 令和二年 1月
- 1 (祝) ●元日祭 正午
 - 3 (金) 甘木親教会年頭参拝
 - 5 (日) ★少年少女会「鏡開き」10時半
 - 9 (木) 清掃御用 10時
 - 10 (金) ●月例祭(天神様) 10時半
 - 11 (土) 濱口家霊祭
 - 12 (日) 上荒田教会報徳祭
 - 19 (日) 高千穂教会新築落成奉告祭
 - 21 (火) 清掃御用 10時
 - 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
 - 26 (日) 連合会定期総会(鹿児島) 10時
 - 31 (金) 清掃御用 10時

あしあと

加治木教会行事記録

- 信徒会 (敬称略)
各会の担当者
- 信徒総代 吉屋照子
 - 中村幸子
 - 永原久子
 - 壮年会 岡山優一郎
 - 婦人会 小屋敷康子
 - 青年会 永原和人
 - 若婦人会 岡山めぐみ
 - 少年少女会 安楽郁子
 - 典楽 星原恭子
 - バンド隊 岡山めぐみ
 - 連合会信徒部 上田和也
 - 連合会女性委員 永原久子
 - いっしん発行 矢野文枝
 - 信徒会会計 萬代孝子

ご霊神様のおまじり

二月

- 桐野ケサノ之霊神(1日)昭和9年
 - 桐野秋子之霊神(3日)昭和7年
 - 中村照子之霊神(4日)平成15年
 - 吉屋安光之霊神(8日)平成1年
 - 川畑正徳之霊神(12日)昭和23年
 - 矢野政美之霊神(12日)平成11年
 - 野元和子之霊神(13日)平成30年
 - 小屋敷慶二之霊神(14日)平成4年
 - 川畑助太郎之霊神(18日)昭和23年
 - 最勝寺剛藏之霊神(18日)昭和47年
 - 平島タキノ之霊神(18日)昭和52年
 - 福山一間之霊神(20日)平成16年
 - 川畑幸正之霊神(21日)昭和21年
 - 中村正義之霊神(21日)昭和21年
 - 野口ミヤノ之霊神(22日)昭和60年
 - 永原初男之霊神(22日)平成22年
 - 大山テル之霊神(22日)平成27年
 - 平島房代之霊神(24日)昭和6年
 - 中島武夫之霊神(24日)昭和50年
 - 桐野ケイ之霊神(25日)昭和2年
 - 前田京子之霊神(25日)平成14年
 - 山下ヒサエ之霊神(28日)平成2年
 - 宮内ミツル之霊神(28日)平成13年
- 〔先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。〕
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

二月九日(日)十一時より
前日、御用奉仕

報徳祭奉仕

に引き続き 矢野政美大人例年祭
多良木教会長
教話 梅木博光先生

二月十七日(月)

甘木親教会

出発 午前七時頃
帰着 午後六時頃

報徳祭参拝

報徳祭

二月 十一日(祝) 多良木教会
午前十一時より

二月二十三日(日) 西鹿兒島教会
正午より

三月十四日(土)・十五日(日)

午後二時より 午前十時より
鹿兒島教会にて

典楽会講習会

琴・龍笛・笙・筆箒・太鼓

教会行事

2月

- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
 - 4 (火) 甘木親教会初代立日
 - 8 (土) 御用奉仕
 - 9 (日) ●加治木教会 報徳祭 11時
 - 11 (祝) 多良木教会 報徳祭 11時
 - 12 (水) 矢野政美大人立白御祈念 10時半
 - 17 (月) ●甘木親教会 報徳祭 11時
 - 18 (火) 甘木親教会「同釜会」
 - 21 (金) 清掃御用 10時半
 - 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
 - 23 (日) 西鹿兒島教会 報徳祭
 - 24 (祝) 少年少女会(節分) 10時半
 - 29 (土) 清掃御用 10時半
- 《未定行事》青年会・若婦人会

3月

- 1 (日) ●報徳月例祭 10時半
 - 9 (月) 斎掃御用 10時
 - 10 (火) ●月例祭 10時半
 - 13 (金) 矢野クヲ刀自立日 10時御祈念
 - 14 (土) 15 (日) 典楽講習会鹿兒島教会
 - 19 (水) 斎掃御用 10時
 - 20 (祝金) ●春季霊祭 10時半
 - 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
 - 28 (土) 29 (日)
 - 御本部天地金乃神御大祭 参拝
 - 31 (火) 斎掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会

一月二十七日〜二月七日
報徳祭 奉迎

寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時

二月二十四日(祝)
少年少女会

節分

おめんづくり工作
まめまき

午前十時半



「金光新聞」より転載

金光図書館

「中村哲医師追悼展」

(本部総合庁舎で開催中)

「心豊かに暮らすには」

一緒に考えて



金光図書館（金光英子館長／岡山県浅口市金光町）は、一月四日から「中村哲医師追悼展―一隅（いちぐう）を照らす」を開催している。

中村医師は長年、アフガニスタンで人道支援を続けるNGO「ペシヤール会」の現地代表として用水路

建設などに尽力し、井戸掘りをする医師」として広く知られてきたが、昨年十二月四日、同国で銃撃され、命を落とした。

今回の展示が開催されたきっかけは、昨年八月二十九日に中村医師が金光北ウイングやつなみホール（同町）で講演会を行ったことによる。

講演会は「ペシヤール会を岡山から支援する会」（代表・三原明子氏）が主催したもので、その際、聴講した金光図書館職員が三原氏と交流し、中村医師の死後、三原氏から展示開催の依頼を受けて実現した。

三原氏は、中村医師と展示への思いを、次のように語っている。「中村医師は偉大であるにもかかわらず、本当に素朴な人だった。人から『なぜ医師がそこまで活動するのか』と問われれば、『目の前に泣いている人がいたら「なぜ泣いているの?」と声を掛けるでしょう。その感覚と同じだと思います』と答え、常に『現地の農民のために』と自身の命をかけて活動していた。この展示を通して、人々が心豊かに暮らしているために、何が必要で、何ができるの

かを一緒に考えてみてほしい。そして、今後も募金などを行い、活動が続くことを願う」なお、展示期間中は、ペシヤール会と中村医師の活動内容について、三原氏による説明が左の日程で行われる。

●展示期間

一月四日（土）～四月五日（日）

●展示場所

金光図書館二階閲覧室

同館入口階段部分

本部総合庁舎一階ロビー

●活動内容の説明

○二月十四日（金）午後一時～

午後三時の時間帯で随時

○二月二十六日（水）午前十時～

正午の時間帯で随時

※説明を希望される方は、当日、同館二階カウンターまでお越しください。

※三月二十八日（土）～二十九日（日）は、御本部天地金乃神御大祭に参拝させていただきます。各展示場は、本部教庁内です。都合をつけて訪ねさせていただきます。

報徳祭

矢野政美大人例年祭

をお迎えして

令和二年二月九日

おめでとうございます。本日の報徳祭は、九州開道の祖、小倉親教会初代教会長桂松平先生の願いによりご本部に請願され、金光四神貫之君一年祭が本部広前の御霊祭として執行されたことに始まります。

金光四神様はもとより、教祖様の奥様（一子大神様）、第一世管長様、歴代金光様をはじめ先覚先師のご霊神様方は「神も助かり、氏子も立行く」神人の道を現わされ、生神金光大神取次の御働きによりまして、多くの人が救い助けられ、今日までおかげこうむって参りました。そのご精神を改めて頂き、尊き御働きにお礼を申し上げるみ祭りであります。

また引き続き、加治木教会前教会長矢野政美大人の例年祭が仕えられます。

金光様、甘木親教会初代・二代親先生のご命を受けられて、矢野政美大人は「加治木で鳴らぬ太鼓はどこへ行っても鳴らぬ」との母堂矢野クラ刀自のみ諭し受け、まさに死ぬ覚悟を持って道の布教にお取り組みになられました。

そのおご苦労によりまして、後々の者、信奉者一同、大難を小難に小難を無難にと助かり立ち行くおかげを頂いてきております。改めてご布教のご苦労にお礼を申し、神恩・師恩に報いることに努め、元氣な心と体で、明るく朗らかに、家族そろっての信心生活となりますよう、励ましていただいで行きましよう。

教会長 矢野 章

報徳祭次第

- 先、祭員着席
- 次、開帳行事
- 次、拝 礼
- 次、神前拝詞奉唱
- 次、取次唱詞奉唱
- 次、祭主祭詞奏上
- 次、祭主玉串奉奠
- 次、天地書附奉体
- 次、参拝者代表玉串奉奠
- 次、「真心の道迷わず失わず」斉唱
- 次、神徳賛詞奉唱
- 次、拝 礼
- 次、祭員退下

例年祭次第

- 先、祭員着席
- 次、拝 礼
- 次、霊前拝詞奉唱
- 次、祭主祭詞奏上
- 次、祭主玉串奉奠
- 次、参拝者代表玉串奉奠
- 次、祖先賛詞奉唱
- 次、拝 礼
- 次、祭員退下

食前訓

「食物はみな、人の命の為に天地乃神の作り与え給うものぞ。」

「大酒大食するは絶食のもとになるぞ。」

「食物はわが心で毒にも薬にもなるものぞ。」

「何を食べるにも飲むにも、ありがたくいただく心を忘れなよ。」

〔教典「773」775頁 道教えの大綱・信心の心得〕

食後訓

「体の丈夫を願え。」

「体を作れ。何事も体がもとなり。」

〔教典「775」頁 信心の心得〕